

入選

小さな親切

福岡県 今元中学校

3年 安東直輝

周りと同じことをする。これは、決して正しい判断とは限らない。状況によっては、周りとは違う行動をすることも大切である、と私は信じている。

私が中学1年生になったばかりのとある日、その日は、友達と少し遠いところにある映画館まで映画を観に行くため、電車に乗っていた。私たちが電車に乗ったときには、だいたいの席が空席であったが、駅を通過するごとに次第に人も増え、すぐに満席となった。

そんなときに、大きなお腹を抱えた女性が1人乗車してきた。女性は、車内を見渡すと両手に持っていた荷物を床に置いた。そのときの私は、自分以外の誰かが女性に席を譲ることを期待していたが、誰1人として席を動かそうとはしなかった。

私は、少し女性を不憫^{ふびん}に思い、席を譲ることを考えた。しかし、私には、声を掛ける勇気がなかった。断られたときのことや、周りからの視線などのことを考えると怖くなってしまったのだ。

私が迷っていると、私の目の前に座っていた友達が立ち上がり、女性に自分の座っていた席を譲った。

そのとき女性は、ほっとしたような穏やかな顔で「ありがとう。」と言って、そっと席に座った。私は、友達の勇気ある行動に心の中で称賛すると同時に、何もできなかった自分への背徳感で少しモヤモヤしていた。

その後、映画館で映画を楽しんだ私は、帰りの電車に乗った。その頃には、行きのできごとなど忘れていた。少し乗車していると、帰宅ラッシュの時間帯であったため、すぐに車内は満席となった。そんなとき、怪我をして少し大きなサポーターを足につけた男性が乗車してきた。

すぐに、私の脳裏に行きのできごとがよぎった。私は、真っ先に友達を見た。しかし友達は疲れ果て眠っていた。今度の私は、考えるより先に行動することにした。誰も立とうとしない中、私だけが立っていた。私は、周りの視線がとても気になった。そのまま、男性に私は、声を掛けた。

「席、座ります？」

今度は男性が、「あっ、いいんですか。ありがとうございます。」と、ほほえみながら、うれしそうな顔で座ってくれた。私は、このとき心にかかっていたモヤモヤが晴れた。このとき初めて、勇気を出して、周りとは違った行動をする大切さを知った。私の心は、とても温かくなっていた。

今の私は、自分のできる親切なら大抵のことはする。なぜなら、自分も心が温かくなるし、ほかの人を幸せにすることができると思うからだ。

これからも、人に親切にして小さな幸せを広げていきたい。